

発行

株式会社 エスクリエイト

名古屋市中区錦一丁目4番16号 日銀前KDビル4階

TEL: 052-222-3600 FAX: 052-222-3699

URL: <http://screate-soft.co.jp/>

担当: コンサルタント 石垣 智博

tomohiro.ishigaki@screate-soft.co.jp

ウェアラブル端末で健康管理と IT がさらに融合していく？！

何が起こったんだ！（下記、10/31のWebの一面です。）

・東京株、一時800円超の急騰 NEW!

原因は下記にあったようです。

[東京 31日 ロイター] - 日銀は31日に開いた金融政策決定会合で、マネタリーベースを年間で約80兆円増加するペースで資産買い入れを行う追加緩和を決定した。これまでに比べて10—20兆円の追加となる。資産買い入れは、長期国債を年間約80兆円、ETFを同約3兆円、J-REITを同約900億円、それぞれ保有残高が増加するペースで行う。

そのため株価だけでなく為替も1ドル111.25円まで急騰しています。（10/31 17:15現在）為替の変動については様々な原因があるかと思いますが、追加緩和により市場に回る円（貨幣）増え、円の価値が下がることが見込まれたことにより、円安になったのだと考えられます。（さらにアメリカの量的緩和の終了決定があり、相対的に円が弱くなる状態でもあります。）

同日の日本経済新聞によると GPIF (GPIF とは年金を運用している独立行政法人です) が運用する債権の比率を6割から35%に下げて日本株の比率を約12%から25%に上げるという記事が載っていました。130兆円の運用資金の25%が日本株に投資されるということになります。それだけでも株価の押し上げ材料になっていたところにこのサプライズニュースがあったというわけです。

株価・為替の潮目が変わったのかは分かりませんが、為替については中期的にある程度円安が継続すると想像できます。

（あくまでも勝手な想像（推測）ですので、もっと円安になったり円高に戻っても私のせいではありませんので・・・。）

株価もこのままいけば、政府は消費税10%への増税がやりやすくなるでしょうね。（う～ん、日銀のこのサプライズ、政府の圧力があつたのかなあ？これで目論見（物価安定目標の早期実現）通りにならなかった時が怖いですね。）

さて、今月は今とても気になっているウェアラブル端末を話題にします。

◆ウェアラブル端末が熱くなってきた

最近ニュースで良く聞くようになってきたウェアラブル端末。ウェアラブル端末を簡単に説明しますと、身につけて持ち歩くスマホ（コンピューター）のことです。既にご存知だと思いますが、大きなニュースは下記の通りです。

・iPhoneでおなじみのAppleが「Apple Watch」を2015年に発売

・マイクロソフトが「Microsoft Band」を発売（今のところアメリカ国内のみ）

他には、台湾ASUSから「ASUS ZenWatch」、米Fitbitから「Fitbit Charge」他、韓国LGから「LG G Watch R」、ソニーモバイルコミュニケーションズの「SmartWatch 3 SWR50」などが発売又は発売予定であります。

10/31の日本経済新聞によりますと、2014年のウェアラブル端末の出荷台数は世界全体で約1,900万台になる見通しであり、さらに2018年には1億1,000万台以上まで増えると予測されると伝えています。ますます熱くなってきますね。反面、一年以上前に購入した3分の1は全く使わなくなったり、使う頻度が減ってきているという調査データもあると掲載しています。



ちなみに、「Apple Watch」「Microsoft Band」は、これまでのウェアラブル端末とちょっと違うかなあと個人的に感じています。実は私はウェアラブル端末にはちょっと懐疑的でした。それは、用途が限られており使ってみたくと思うシチュエーションで使えなかったり、他のもので代用ができそうだったからです。しかし、「Apple Watch」「Microsoft Band」は多機能である分、使用できるシチュエーションの範囲が広く多様な使い方ができるかなあと感じています。

◆特に健康分野での可能性がありそう

ウェアラブル端末からクラウドにデータを記録・集計することで日々の活動をスマホ・PCで「見える化」することが可能になります。手入力が不要となるのは些細なことですが、毎日使っていくうえでは簡単で良いことですね。

さらに腕時計(ウェアラブル端末)で決済できるようになれば、散歩やスポーツなどで財布・スマホを持ち歩かなくても良くなります。特にランニング・ツーリングでの持ち物が少なくなり、嬉しい人が多いのではないのでしょうか。

各社の売り込み通り、日々の健康管理にも使えます。心拍が計測できたり、日焼け具合(UV センサ)が分かるようです。今後技術が発展して血圧まで測れるようになるとすごいですね(無理か・・・)。さらに、薬の飲み忘れなど防止する機能があれば、高齢者にも普及することでしょう。

最近ではGoogleの研究機関であるあるGoogle Xが「ガンなどの病気をウェアラブルデバイスとナノ粒子を使って血液からモニタリングするというプロジェクトを発表」したことが話題となりました。

これからさらにウェアラブル端末から目が離せません。健康・スポーツだけでなく、工場内の工程管理(バーコードリーダーの代り、人作業のトレースなど)、営業管理、配送管理など、ビジネスでの活用も期待できるかもしれません。

「本は考える為のサプリメント」(その43)

今月紹介する書籍は、日本の景観に関する新書です。ビジネスに直接的には関係しないかもしれませんが、日本が抱えている課題を浮き彫りにさせてくれている書籍だと感じました。

 「ニッポン 景観論」(アレックス・カー 著)

かなりの皮肉を交えた語り口調で、日本の残念な景観を紹介しています。コンクリートで覆われている海岸線、白い護岸、見上げる空には電線、山には鉄塔、沢は砂防、つぎはぎの擁壁、同じ場所にしつこくある看板、景観とマッチしない建物、紅葉の中にある緑の一角などなど。

さらに、日本の主だった16都市の写真を掲載し、どの都市も同じような景観でどの写真が何処なのかさっぱり判断がつかない殺伐とした風景だと日本の都市を紹介しています。

極めつけは、旧建設省が1950年代に作ったユートピア・ソング。歌詞は次の通りで、この歌を全国民が今も歌い続けている状態が問題だと記しています。

「山も谷間もアスファルト ランラン ランラン ランラランラン ランラン 素敵なユートピア」

また、本書はたくさんの写真が紹介されており実情が良くわかります。また、写真を加工して、看板がなかった場合や、土木工事した場合、海外観光地を日本化したイメージなど、対比して掲載しているのもより分かりやすいです。

先だって京都嵐山の渡月橋・天龍寺周辺を散策しました。そこは、様々な飲食店、土産屋が立ち並び、凄い人の観光客で賑わっていました。賑やかで楽しいかもしれませんが、観光客が本当に望んでいる京都(古都)の姿なのかなとも思いました。正直もう一度行きたいエリアとは思えなかったです。(勿論、ちょっと足をのばせば、竹林エリア・鈴虫寺・愛宕等があり雰囲気のあるところがあります。あと、京都は大好きですの...)

日本人自身は現在の環境にどっぷり漬かっているの、疑問を持たず受け入れていたり、それが普通になっています。その普通の状態を、日本人ではない第三者に指摘されているから強烈です。ただ、著者の日本愛をとっても感じます。日本が好きで日本の景観を愛しているからこそその「心の叫び」ではないのでしょうか。是非読んでいただきたい書籍です。

編集後記

コンビニのコーヒーがなかなか旨いですね。スタバが好きで、良くくつろいでいました。しかし、最近はコンビニのいれたてコーヒーが思ったより美味しく、コンビニコーヒーに浮気をすることがあります。また値段も100円からです。ただ、スタバはくつろげる場所と雰囲気を提供しています。うまく使い分けてあったかいコーヒーが美味しい季節を満喫したいと思ったこの頃でした。(石)